

理事長 就任・退任のご挨拶

就任のご挨拶

理事長
宮坂 孝一



被保険者ならびにご家族の皆様におかれましては、健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

このたび、金山前理事長の後任として、東日本電線工業健康保険組合の理事長に就任いたしましたので一言ご挨拶を申し上げます。

皆様ご承知のとおり、昨今の健康保険組合を取り巻く状況は、高齢化の進展、医療技術の高度化に伴う医療費の増加に加え、団塊の世代すべてが後期高齢者となり、高齢者医療への拠出金の負担が更に増加していくことも見込まれます。

一方でわが国の出生数は過去最少となり、少子化の進行に歯止めがかからず、急速に減少する現役世代で増大する医療費を支えなければならないという構造的な課題がますます深刻さを増しています。健康保険組合連合会が発表した令和6年度の組合全体の決算集計においては、約半数の健保組合が経常収支で赤字になるなど、財政の安定化が急務です。

このような厳しい状況のなか、理事長という重責をお引き受けすることになり、その責任の重大さに身が引き締まる思いです。今後も医療費節減等による支出の適正化をはじめ、健保組合の本旨である加入者の皆様の健康の保持増進を支援するなど、健保組合の健全運営に努めていく所存です。皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、加入事業所のますますのご隆盛と、被保険者とご家族の皆様のご健勝を祈念いたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

退任のご挨拶

前理事長
金山 敦



このたび、2月18日をもって、東日本電線工業健康保険組合の理事長を退任いたしました。平成30年2月に就任して以来、事業主ならびに被保険者の皆様には格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

就任以来の約8年を顧みますと、健康保険組合を取り巻く環境は、高齢化による医療費の増加に加え、高齢者医療制度への支援金・納付金の負担などにより、財政は厳しい状況におかれ、また、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、社会活動はもとより、健保組合の事業運営も大きく制限されました。そのような中、ジェネリック医薬品の使用促進、特定健診・特定保健指導による医療費適正化などを推進し、近年は医療DXの基盤となるマイナ保険証の導入と活用促進など、健全な事業運営に努めてまいりました。

しかしながら、全国の健保組合の財政については、高齢化社会の進展や医療の高度化による医療費の増加、団塊の世代がすべて後期高齢者に達したことによる拠出金の負担増などが見込まれ、依然として予断を許さぬ状況にあります。

このような厳しい状況下に就任されました宮坂理事長には大変なご苦勞も多いことと存じますが、役員が一致団結して安定的な運営を遂行され、さらなる発展を遂げられることを心から願っております。

結びに、皆様のご厚情に感謝を申し上げるとともに、当健康保険組合に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。